

パティオから始まる家

視線を気にせずくつろげる パティオは住む人の楽園

text_吉住慎之介 photo_古田雅文

計画の始まりは建て主からの連絡でした。街で気に入られた建物が私の作品だったので。見ず知らずのお宅を訪ねるほどの熱意あるご夫婦と、細部までのこだわりを共有しながら家づくりを進めていきました。

敷地は周囲を住宅地の建物に挟まれていたので、住み手のプライバシーと開放感を両立させることを第一に考えました。そして頭に浮かんだのが、ヨーロッパ建築で見られるパティオ（中庭）の考え方です。まずは、パティオを中心に置き、そしてパティオの外壁を囲うようにアプローチを配置。このアプローチを設けたことで、玄関までのしほしの「間」をつくることができました。

真っ白な壁や天井に反射して降り注ぎ、玄関全体をやわらかな光で包んでいます。また光の加減によって色が変化するガラスブロックやオパール製のステンドグラスをアクセントに使用し、絶好のおもてなし空間ができました。

このような外界からプライバシーを保ちながらも、明るく心安らぐ住まいが完成したのは、パティオが大きく貢献しています。そしてもうひとつ、この住まいを語るうえで外せないのが白い石を材質に用いた点です。日本では「冷たい」イメージを持たれる石材ですが、使い方によってはぬくもりを感じる素材です。こちらの住まいには磨きあげた大理石ではなく、割れ肌状の大理石を外材に用い、重厚感と明るさ、知性をアピールしました。



構造上必要不可欠だった柱を円柱にし、透明感のあるガラスのモザイクタイルを貼ることで「魅せる」造作にしている。



ラインや高さに変化をつけたスタイルを受け止める、タフでニュートラルな白い外観。表情豊かなガラスブロックがデザインのスパイスに。



左／中庭を囲み込むようにつくられたアプローチ。壁には大理石の割れ肌を使用し、清潔感と重厚感を共存させている。
中／イタリア製のガラスブロックとアンティークのステンドグラスがアクセント。白壁が光と色彩を映すスクリーンに。
右／ダイニングとリビングの間仕切り代わりにガラスを斜めに3枚配置。リビングからの視線を遮る機能も備えている。



Architects of wakayama

エテルノ建築設計事務所

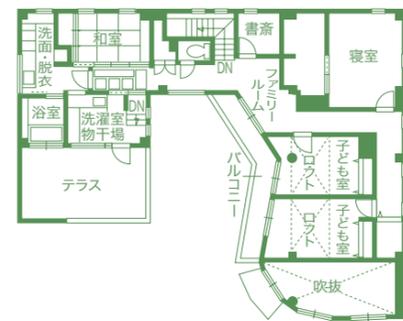
和歌山市中島 477-10
Tel. 073-471-5000
Fax. 073-471-7700
E-mail eterno@pj8.so-net.ne.jp
業務時間：9:00～19:00
定休日：第2、第4土曜日、日曜、祝日
建築士事務所登録番号：和歌山県知事登録第(イ)675-8号

橘 雅彦 1941年和歌山市生まれ。1974年イタリアフィレンツェ大学建築科留学。1975年10月ミラノのSTUDIO PROに正社員として勤務。1976年9月エテルノ建築設計事務所設立。1993年ガラス店装(全国)コンテスト審査員特別賞受賞。1995年同展最優秀賞受賞。1997年和歌山県ふるさと建築景観賞受賞。2005年和歌山市優良建築物賞受賞。

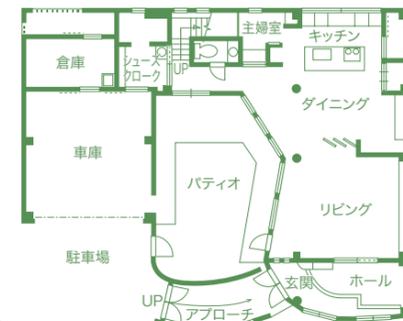


〈生命の器〉を任せられる 建築家との出会いが重要

家を作る時、信頼できる建築家に出会えるかが、建て主にとって一番大事なことです。実際に街へと繰り出し、心に響く建物に出会ったら、今お住まいの方に生の声を聞けば、建築家の姿が見えてくることもあるのではないのでしょうか。建物は人工物ですが、住まいは人の命の器であり、活力ある生命体として自然と調和し続けなければなりません。このテーマに向かって、歩み続けています。



2階



1階

house with attractive patio

●所在地/和歌山市●家族構成/夫婦+子ども2人●敷地面積/281.00㎡(85.00坪)●延床面積/276.47㎡(83.63坪)1階155.08㎡(46.91坪)、2階121.39㎡(36.72坪)●用途地域/第二種住居地域●建ぺい率/60%●容積率/200%●工法/重量鉄骨造●竣工/2012年4月●本体工事費/約70,000,000円(地盤改良、全館空調システム含む/外構除く)●施工/株式会社坂田工務店